

（午前9時31分 開議）

○議長（中上良隆君）おはようございます。  
ただ今の出席議員数は22人で定足数に達しております。

○議長（中上良隆君）これより本日の会議を開きます。

#### 日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（中上良隆君）これより日程に入り、  
日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則第81条の規定により、議長において4番 松浦君、13番 瀧君の二人を指名いたします。

#### 日程第2 一般質問

○議長（中上良隆君）日程第2 一般質問を行います。

今回の一般質問の通告者は19人であります。

質問は会議規則第62条の規定により、別紙の順序により発言を許します。

順番1、7番 中谷和史君。

〔7番（中谷和史君）登壇〕

○7番（中谷和史君）それでは議長のお許しをいただきましたので、2008年6月議会一般質問の口火を切って、質問をさせていただきます。

思えば早いもので、新人議員として初の議会に臨ませていただいて以来、もう一年が過ぎました。その間、いろいろな場面で、市長の本市を思う気持ちや方針をお伺いし、日々薫陶を受けてきたわけです。本来、その市長の思いがバックボーンになり、施策に生かさ

れ、全体計画が構成され、企画立案するものと思っていました。しかし、発表される個別の案件を見ているうち、ある時期から、調整不足のままアドバルーン的に発表されているのではないかと、との漠然とした疑問がわいてまいりました。

また、以前、「お客様は神様です」という言葉がはやりましたが、まさに一般商店、企業におきましては、お客さまの気持ちになり、お客さまのお役に立ち、お客さまに喜んでいただけることが第一義的に大切なこととあります。市政においても全く同じであろうと思います。市民の気持ちになり、市民のお役に立ち、市民に喜んでいただけるという気持ち、職員皆の仕事にあらわれなければならないと思うのであります。しかし、特に計画の策定、住民説明のあり方など、必ずしもそのようになっているとは思えません。

そこで、市長の全体についての感想、思いは後でお伺いさせていただくとしまして、個別案件の質問に入ってまいりたいと思います。

まず、幼保一元化であります。昨年、唐突な形で5カ年計画が発表され、高野口においては、既に動き始めています。先日も指定管理者による説明会が行われ、素晴らしい理念の披露があったところです。

しかし、5カ年計画の設置運営におきまして、まだ公設民営、公営の議論が十分でなく、1次計画は何でも民営と言いながら、2次計画では一部公営とうたわれています。なぜ1次計画でそれがいいのか、お伺いいたします。また、現有施設の統合閉鎖がありますが、閉鎖される地域の住民感情に配慮した、説明会などの施策が乏しいように思いますが、具体

的な説明スケジュールなど、お伺いいたします。

次に、小中一貫教育、または小中一貫校の導入についてであります。これも教育協議会の答申を受け、一部既に始まり、次年度からでも本格的に動き出しそうな勢いでもあります。そして、どの地区どの学校と、うわさと憶測の中で、これも唐突に、あやの台に小中一貫校を開設しますとの報告が、先般、教育長からありました。担当者の早く実行したい意欲はわかるのですが、実行される側の子どもたち、ご父兄の感情に配慮した環境づくりが必要であると考えます。

そこでお伺いいたします。はじめから小中一貫ありきで進んだ教育協議会の答申のみで、有識者の意見、一般住民の意見を十分集約したとお考えなのか、別の意見集約を考えておられるのか、お伺いいたします。

また、導入された場合の、県が進める中高一貫校、古佐田丘中学校のカリキュラムとの整合性はどのように調整されるのか、小中一貫校から古佐田丘中学校を受験したいとき、従来の小学校に比べ不利益はないのか、お伺いいたします。

さらに、全国でも数えるほどのこのような先進的な取り組みが、本市のような地方都市で実験的に取り組むことに対する意義や、なぜ今なのかについて、教育長のお考えをお尋ねいたします。

また、小中一貫校となれば、当然、中学校給食の導入が必要になると思いますが、これもあわせて教育長のお考えをお尋ねしたいと思います。

次に、設置予定地の偏り、偏在性であります。幼保一元化施設もそうですが、隅田地域に現有隅田小学校、恋野小学校、隅田中学校がありますが、そこに、あやの台の小中一貫校の新設が打ち出されましたが、4校並立で

いくのか、現在の学校を閉鎖するのか、小・中学校の適正人数や、適正クラス数についてのお考えをお聞かせいただきたい。また、地域の偏りについてもご答弁願います。

そして、象徴的に取り上げますが、この幼保一元施設からあやの台小中一貫までの施策の打ち出しにおいて、それぞれ市長決裁があった上で提示されていると思いますが、それぞれの案件が脈絡なく提案されているように感じます。市としての全体計画の中で、担当部局間の調整はどのようになされ、どんなところに留意され、決定されているのか。市長権限の発揮はどの段階であるのか。施策の統一性についてお伺いいたします。

次に、本市の経済政策についてお尋ねいたします。

先般、高野口こども園の建設工事に関し、5月臨時議会でも出まして、皆さまご承知のように、これも象徴的な事例がありました。規則と言えはそれまでですが、常に本気で市の商工業の発展を考えているならば、別の方法があったように考えますが、いかがですか。

また、あの工事の3億円が、市内業者へ支払われた場合とそうでない場合の経済波及効果について、検証されているでしょうか。その結果はどうでしょうか。市関連施設の建設のみならず、調達品一つ一つまで市内発注した場合の経済波及効果を考えられているのか。執行した予算のいくらかでも、市税として還流するようなコスト意識を持った考えで運営されているのか、お伺いいたします。

入りを図り、出を制する、これは経営の基本であります。通りいっぺんの答弁でなく、担当部長、心よりのご答弁をお願いいたしまして、1回目の質問といたします。

ご静聴ありがとうございました。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君の一般質問に対する答弁を求めます。

教育長。

〔教育長（森本國昭君）登壇〕

○教育長（森本國昭君）おはようございます。

中谷議員のご質問にお答えをいたします。

まず、県施策の中高一貫校とのカリキュラムの整合性についてであります。現在、橋本市で考えている小中一貫教育は、学校教育法に示された目標を踏まえつつ、現行の学習指導要領の基準にのっとり進めることを考えております。小学校6年生で、中学校の学習指導要領を先取りしてカリキュラム編成を行う、といった実践は行いません。したがって、和歌山県教育委員会が進めております中高一貫教育校を、中学校進学時点で選択してでも、カリキュラムの整合性を保つことができます。

次に、設置予定地域の偏在性についてお答えいたします。

教育委員会といたしましては、教育協議会での答申を踏まえ、全公立小・中学校を小中一貫教育校としていきたいと考えております。そこで、あやの台へ学校を新設する場合、小中一貫教育校としたいと考えておりますが、隅田中学校区の小・中学校のあり方と関連してきますので、今後、多様な観点から検討してまいりたいと思っております。

次に、教育協議会の内容についてお答えをいたします。

平成19年度、協議会は全体会3回、小中一貫教育部会3回、生涯学習部会3回、計9回開催しております。小中一貫教育に関する協議会での議論の内容ですが、委員一人ひとりが、子どもたちの現実から見えている課題について提起する中で、子どもたちの発達を保障する視点から、システムに子どもを合わせていくのではなく、現在の子どもたちに合った支援や仕組みを考えていくことの大切さや、そこにかかわる大人の役割について論議がなされました。

そして、答申として、小学校と中学校とが「生きる力」の育成を一体的に取り組むことはもちろん、幼児期から小学校へのつながりも視野に入れた小中一貫教育にすることを提言いただきました。あわせて、同一敷地内での実践は効果的な小中一貫教育が期待できるが、条件が整わない場合でも、9年間を一体的なものにとらえた取り組みを進めることも、提言いただいているところでございます。

次に、地方都市での先進的な取り組みの必要性についてお答えいたします。

教育委員会として、小中一貫教育を進めていこうと考えた背景には、不登校児童生徒や問題行動の増加、小学校と中学校との間にある授業の進め方や生活指導、生徒指導に対する危機意識や取り組みなどの違いがあり、このことが、児童生徒の学習や学校生活に対し不安や戸惑いを招き、学力や学習意欲の低下、生活習慣の乱れなどの課題を解決していきたいという思いがあります。小学校と中学校の9年間をひとまとまりにとらえ、義務教育9年間に責任を持ち、地域の中で知徳体に望ましい力を育もうとするもので、先進的な取り組みを行うことを目的としているわけではございません。

次に、中学校給食の必要性についてお答えいたします。

平成19年12月議会でも、中谷議員より同様のご質問をいただき、「学校給食は成長期にある子どもたちにとって、健康な心身を育むために重要な役割を担っている」とお答えさせていただいているとおり、重要性は認識しております。今後、市長部局と協議しながら検討してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

○議長（中上良隆君）総務部長。

〔総務部長（中山哲次君）登壇〕

○総務部長（中山哲次君）続きまして、関連

施設の建設及び調達品の市内発注による経済効果の検証についてであります。まず、平成19年度建設工事の発注件数については、企業会計を除く入札による契約分として117件、そのうち、市内業者の方と契約を締結したのが113件であります。金額にしますと、当初契約の全体額は17億8,173万8,208円、そのうち、市内業者の方と契約いたしましたのが13億7,358万2,208円であります。割合にしますと、市内業者の方と契約した件数は約97%、契約金額においては約77%となっております。

随意契約分においては64件、6,109万4,040円の契約がございますが、特殊事情がない限り、市内業者の方と契約しているのが実情であります。

なお、これらの公共調達の結果、市の税収に対してどのように反映されているのかという点につきましては、その実態を把握するのは困難であります。地域経済の活性化にはつながっているものと考えておりますので、ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

○議長（中上良隆君） 幼保一元化推進室長。

〔幼保一元化推進室長（前田彦尚君）登壇〕

○幼保一元化推進室長（前田彦尚君） 幼保一元化計画の質問にお答えいたします。

現有施設の閉鎖を予定されている地域の住民感情についてですが、昨年6月に幼保一元化5カ年計画を発表以来、説明会やパブリックコメントを通じて、たくさんのご意見をいただきました。保育所、幼稚園の閉鎖予定の地域の皆さんには、長年、地域の中で身近にあった施設がなくなることへの寂しさなど、いろいろな思いがあることは当然のことと思っております。

しかしながら、今日の少子化の現実と将来推計を見通す中で、次代を担う子どもたちの将来を考えたとき、幼児教育にとって最も大切な子ども集団の形成が確保できない状況に

陥りつつあります。子どもは集団の中で、遊びを通して心や体をつくり、「生きる力」を育てます。大人は真の遊びを子どもに教えることはできないのです。この最も大切な子ども集団を確保することが、一番の使命であると考えています。今後は、地域の住民の皆さまのご意見を十分聞きながら、住民感情にも配慮して進めてまいりたいと考えています。

次に、1次計画では公設民営で、公営はなぜ2次計画としたのかのおたただしですが、民営化につきましては、平成11年に策定されました橋本市行政改革大綱の中で、民間委託の推進が掲げられています。その方針に沿って、今日まで正規職員の採用を控えるなど、準備をしてきております。また、全国的に民営化のうねりの中で、早い段階から質の高い法人を確保したいとの思いから、市として公設民営の方針を打ち出し、1次計画へ位置付けたところであります。

ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

○議長（中上良隆君） 7番 中谷和史君、再質問ありますか。

7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君） 一応、質問の順序で行かせていただきます。

今、幼保一元化推進室長のほうから答弁いただいたわけですが、その2次計画のほうで公営との切磋琢磨ということ、この前の発表の中でも基本政策の3番では、官から民へということを書いておられるし、6番の課題の2のところでは、官から民へを基本としていますが、2次計画では公立のということで、切磋琢磨という形で書いてある。

国の小泉改革も、何でもかんでも民へという形のところの、今、不具合が出てきているわけですから、うちの幼保一元におきましても、せっかく課題のところに取り上げておられるわけですから、改めてその2次計画を前倒し

するような形で、1次計画のどこかにでも公設公営を入れてみてはいかがかと思うんですが、そこら、1次計画では切磋琢磨しなくてもいいよと、2次計画では切磋琢磨しますよと、この辺がちょっとよくわからんというところですよ。

再度ご答弁お願いいたします。

○議長（中上良隆君）幼保一元化推進室長。

○幼保一元化推進室長（前田彦尚君）1次計画では、公設民営を基本といたしまして計画をつくらせてございます。切磋琢磨につきましては、今現在、公立の保育所がたくさんございます。そこへ公設民営、それから今でも民設民営等あるんですけれども、いろんな形の形態の幼稚園、保育所、あるいはこども園の中で、お互いそこで働いている保育士、あるいは運営の中で子どもをどう育てていくかといういろんな中で、特色はそれぞれ出てきます。いろんな特色の中で、保育士同士が刺激を合せてやっていくということで、これは1次計画においても2次計画においても、そういう面では考え方は同じでございます。

以上でございます。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）ありがとうございます。

この前も指定管理者、非常にいい話をさせていただいておりましたので、ぜひそのところ、ご指導していただくような形でやっていただきたいなというふうに思うんですけれど。

それと、住民感情に配慮した説明会、その辺の具体的な方法、あるいは、ここはこういう事情でなくすんですよというような、あるいは住民説明、実は1年間の市報を見ましたら、幼保に関しては7回ぐらい出ておるんですよ。小中一貫については1回、教育協議会をやってますよというあれしか出てないと。もうちょっと住民に対して説明をしてあげるのが妥当でないかなと思いますので、具体的

な説明のスケジュールとか、今後どのように民間に広げていかれるのかということで、幼保の件と、それから小中一貫の広報について、二点お伺いします。

○議長（中上良隆君）幼保一元化推進室長。

○幼保一元化推進室長（前田彦尚君）広報に載った説明会等につきましては7回程度ということですが、それ以外にはいろいろと細かい説明会等を行っております。今後進めていく中では、一定、内部でもいろいろと検討しておるわけですが、地元の住民の皆さんとか、保護者の皆さんとかで協議の場を設けて、そんな中で進めていくということも考えております。

以上でございます。

○議長（中上良隆君）教育長。

○教育長（森本國昭君）保護者に対する説明会はまだ一度も行っておりません。それで、この橋本小・中学校の保護者を対象に、この26日に教育文化会館で説明会を行いたいと思っております。

説明会と言いますのは、これをしますからというトップダウンではなしに、ご理解いただくというか、中身を知っていただいて、いろいろな意見を聞かせていただいて、保護者もわかっている教育にしていきたいと、そういうふうに思っております。そうしないと、結局、保護者が不安であると子どもにマイナスになりますので、そういった説明会をしたいと考えております。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）ありがとうございます。

ぜひそのようにお願いしたいなというふうに思います。また、幼保に関しましては、隅田の区長会も知らなかったということで、前回の説明会がありましたので、ぜひ、まず区長はじめ、いろいろ説明のほどをお願いしたいなというふうに思います。

小中一貫におきましては、この26日に説明会ということで、今、お伺いしたわけですが、実は先進地ということで、品川の教育委員会がよく取り上げられるわけですが、橋本市も教育要綱をまた変更せないと。小・中に合わせてですね。実はこういう品川の小中一貫の教育の要綱があります。これ、実は以前に教育委員会にお持ちして、説明しようとしたんですけども、いや、わかってるよと言うて、もう聞いてくれへんで、きょうここで出すわけですけど、本当に算数、数学においては何年生に何をしますと、あるいは音楽においては何をしますというような、それで全体の方向はこうですよという、品川がある種成功されておる小中一貫教育の、この要領ができております。そういうものがデータとして出ておりますので、そういうものを使っていただいて、もしよろしかったら、これまたご進呈しますが、橋本モデルのようなものをつくっていただけたらどうか。また後の議員の質問の中にも、新学習指導要領どうやというのが出てくると思いますけれども、ちょっとそこのお伺いしたいと思います。

○議長（中上良隆君）教育長。

○教育長（森本國昭君）もちろん、9年間をまとまりにした教育をしますので、そういう小学校、中学校との先生方といろいろ協議をいたしまして、カリキュラムを編成し、いろいろ考えていく予定をしておりますので、またご指導のほど、よろしくお願いを申し上げます。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）ぜひ保護者によくわかるパンフレットなり、こういう冊子なりをつくっていただいて、保護者の、あるいは子どもたちの心配をないように施策をとっていただきたいと思いますというふうに思います。

また、答弁では、カリキュラムは統一しますので中高一貫等、全然問題ないですよというふうに言われましたけれども、今の橋本駅の周辺を見ていただいたらわかりますように、本当に、古佐田丘受験何たらという塾通りになっておりまして、そこら辺の、今の市の教育、6年生ではそのまま入学でけんよというふうな父兄の気持ち、ああいう塾通みみたいな形になってあらわれているんじゃないかなと思います、教育長の感想のほうをちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（中上良隆君）教育長。

○教育長（森本國昭君）小学校、中学校につきましては、新学習指導要領にのっとってするのが当然でございますので、それ以外のことはできません。新学習指導要領に沿って、県立中学校へ行けるような指導ということはできませんので、それはすべて新学習指導要領にのっとっての指導しかできませんので、ご理解いただきたいと思っております。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）済みません。ちょっとくどいようでございます。申しわけございません。

それと、中学校給食の件ですけども、これも12月にお伺いいたしまして、あのとき、実は私も、その説明会の際の教育長のあれを持ってなかったんですが、11月16日の「中学校給食を考えるママの会」においては、教育長、前向きに導入の方向で考えていますとはっきり言い切って、私、横に県会議員さんもおったんですが、そこまで言うのかなということであつた覚えがあります。

12月では、それをちょっと応援の意味で、いつ頃やりますかという形でお伺いしたつもりだったんですが、きょうのところは、重要には認識しているよというところのご答弁をいただいたんですけど、改めて、もう中学校

給食、重要ではあるけれどもいつまでにやるよとか、あるいはあやの台の後よとか先よとかという、そういうところの、やりたいんやとか、もう実はほんまはやる気ないんやとか、その辺のところをお伺いできたらありがたいなと思うんですが、いかがですか。

○議長（中上良隆君）教育長。

○教育長（森本國昭君）以前、富岡議員の質問のときにもお答えをさせていただきました。そのときには、検討させていただいて、議事録にある、前向きにということをおっしゃっていただいたとおりでございます。

中学校給食をする場合には、給食センターも今の状態では無理だという、この間も見に行ったんですけども、それといろいろな施設、エレベーターであるとか、大変な予算、財政面のものがございまして、そこら辺が今後の協議の中に入ってくると思います。

さらにプラス、やはり最近の親御さんはすべて行政にしてもうたらええという、そういう考えが多いので、そういう点もやはり意識改革をしていただいた中で、検討していきたいというふうに思っております。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）ありがとうございます。本当に、ぜひ中学校給食は入れてあげていただきたいなと思うんですが、その予算の問題等々と今言われました。エレベーターの受け入れ設備等々でということ、前回もご答弁いただいたわけですけども、あやの台を建てる予算はあるけど、中学校給食を入れる予算はないよという話になるのか、いや、それ両方何とか予算措置するんやと思っておられるのか、そこら辺がどっちなんやろうなというような思いがいたしますので、後でまたその辺のご意見をお伺いしたい。

それと、隅田地区で、あやの台に建てるよということになりますと、当然、人数の適正

化とか云々とかという話の中で、今も答弁の中で、多様的に考えていきたいというふうにご答弁いただいたと思うんですけども、その内容について、もうちょっとかみ砕いて説明のほうをいただきたいなと思うんですけど、よろしく申し上げます。

○議長（中上良隆君）教育長。

○教育長（森本國昭君）やはり、現在の隅田中学校区ですけど、そこへあやの台の小中一貫を建てるということにつきまして、いろいろ調査させていただいて、適正規模というか、そこら辺がやはり一番の問題だと思います。やはり、現在の隅田中学校区も大事ですし、そこら辺を十分検討した上で、実施していく必要があるのではないかとということで、そのことにつきまして今後検討していきたいと、そういうふうにご回答させていただきます。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）議会の答弁としてはそれでいいんやろうなと思うんですけど、地元の住民としましては、あやの台と片一方でアドバルーンが上がっていて、隅田がほんならどないなるんよと。保護者の間で、いや隅田中のうなるらしいでとか、いや両方分散して、えらい小さい学校二つになるみたいやでと。あるいは、あやの台に統合されたら、下の子どもたちは上向いて、あやの台までのぼっていかんなんのやなというような不安がいっぱい出ております。

また一方で、幼保一元で隅田小学校の横へ施設を持っていくよという、これもうわさなのかもわかりませんが、話が出ておる中で、いや、そのあやの台できて、もうそっちで固まるんやったら河瀬、下兵庫のほうはできたら妻のほうに移行と、その話もどこかでおったと思いますが、幼保一元化施設をそっちへつくってもらったほうが、小学校区も変えてもらったらええん違うかと、そういうよ

うな話も一般の方でなるかと思えます。

ですから、住民に対する説明というのは、そこら辺のところが必要やと思えますので、具体的なタイムスケジュールにのっかって、あるいは施策として、これをまず、このポイントはこうですよということのご答弁をいただきたいなというふうに思います。

○議長（中上良隆君）教育長。

○教育長（森本國昭君）小中一貫の件につきましては、小中一貫校という方法と、小中一貫校、一貫校と。そういう点につきましては、小中一貫校と小中一貫。小中一貫の場合につきましては、各中学校区の公民館等でいろいろな面で、そういういろいろな説明をぜひさせていただきたいと思えます。

このことにつきまして、また今後の小中一貫校につきましては、検討委員会を設置させていただきまして、いろいろな意見を聞いた上で、全体的なことも考えていきたいというふうに思っております。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）そうしますと、あやの台は一旦打ち上げたけれども、まだいつやるかはわからへんと。たちまち実施設計に入るよとか、そういう話ではないというふうにご理解してよろしいのでしょうか。

○議長（中上良隆君）教育長。

○教育長（森本國昭君）まだ検討でございますので、そういうことになろうかと思えます。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）それと、ちょっと後先になりましたけど、隅田地域の地域別人口並びに今後10年程度の就学児童予定数の推移とかというのは、データはお持ちになっておられるとは思いますが、その辺は勘案されて、予想としてはどんなものなんでしょう。

○議長（中上良隆君）教育長。

○教育長（森本國昭君）ちょっと今、資料を

持っておりませんので、また後ほどさせていただきます。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）それではちょっと資料が入るまで次のほうに。

市としての全体計画の中で、担当部局間のいろんな施策の打ち出しについての調整というのは、どのようになされて決定していくのかと。当然、最終的には市長の権限でどうというふうになっているんだろうとは思いますが、その市長権限の発揮というのは大体どのあたりでやられているのか。あるいは各部課長、部にお任せという形になっていて、ある程度、市長の思いも伝わりにくいよという部分があるのか、そこら辺のところ、ちょっと統一性についてお伺いしたいなと思えます。

理事か副市長になるんかな。

○議長（中上良隆君）企画部長。

○企画部長（吉田長司君）幼保一元化につきましては、教育委員会部局とうちの福祉の部局ということで、持ち寄っての会議が、進めた中での進め方で進めているわけでございますけれども、小中一貫も含めまして、これにつきましては、教育委員会部局が中心になる話でございます。そういうことで、従来の政策調整会議とか、そういうレベルではちょっと無理かなということがございます。

そういうことと、適正配置の問題とか含めまして、いろいろな問題点がございますので、その辺の協議が、教育長の答弁にもありましたように、進んでいるわけではございませんので、これからそれについての協議を進めていかなければいけないというふうには考えてございます。

特に、財政上の問題につきましても、まだ協議が始まりかけたような状態でございますので、それと並行してやっていきたいなというふうにご考えてございます。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）いや、今のお伺いしますと、幼保は市長部局のほうにあるのか、小中一貫については教育委員会の部局のほうで、従来の政策調整会議では適正でないというようなご答弁でございました。

そうすると、その調整はどこでとられておるのかという、じゃ、教育部局が打ち上げたら、それはもうそのまま市の施策として進んでいくのかと。それで財政については一回アドバラン上がって、そこから後でぼちぼち調整しましょうかという、そんな平たい話になるのか、いや、それはちょっと待てよと市長が言わはったらそこで止まるんか、事実だけが先に、言葉だけが先に外へ出てしまうということでは、それは方法として、先にアドバラン上げておいて、反応を見て決めるというのも手法としてはあるのかもわかりませんが、そこら辺のところ、いかがでしょう。

○議長（中上良隆君）理事。

○理事（塚本 基君）基本的に、最終は政策調整会議で決まるというふうに私は認識しております。ただ、その教育行政の中での細部にわたる協議については、教育委員会の中で詰めていただいて、いつ年度的に、どのような事業で、どういうふうに進めていくかというふうなことにつきましては、最終的に市長、副市長、教育長も入った中で、政策調整会議の中で決まっていくというふうに思っております。

今の小中一貫につきましても、政策調整会議の中では上がってきている案件でございまして、幼保一元化も当然ですけれども、それについては、企画部長も先ほど答弁いたしましたように、まだ最終的に、年次的にいつ、どうこうというふうなことははっきり詰まったような状況にはなっていないとさせていただきます。

今後、それを確立した形で、最終的に政策調整会議の中で詰めていくことになるというふうに思っております。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）年次、決まってないと言いながら、22年度には隅田の幼保一元やるという話でしょう。隅田に幼保一元やったよと、その後、あやの台やったよという、そういう形になるんか、そこら調整が本当に調整になっておるんかどうか、あるいは地域の偏在性ということについて、調整会議でそういう議論があったのかどうか。再度お尋ねいたします。

○議長（中上良隆君）企画部長。

○企画部長（吉田長司君）ちょっと不安を抱くような答弁でございましたけれども、幼保一元化につきましては、その5カ年計画というのが政策調整会議、それを越えた会議にもありましたけれども、協議してございます。ということで、その中で隅田地区のことについて、再度協議するというのを位置付けしたわけでございまして、それについて、今やり始めているような状況でございます。

それと、小中一貫につきましては、ちょっと決めてから何やらするんかというような言われ方しましたけれども、この前から、教育委員会のほうから答申がたまして、その理念とか考え方について委員会でご報告したような状況でございます。

ということで、橋本の小・中とあやの台については、やっていきたいんやというような話があったわけでございますけれども、そのときにも、いつからとかいう具体的な話がなくて、3年ぐらいで橋本やりたいなというような教育長の談話があったような状況でございます。

教育行政につきましては、耐震の問題とかいろいろございますので、財政上の問題も含

めまして、相対的に政策調整会議、私、それを超えたと言いましたけども、政策調整会議をベースにした会議で、今後かなりの部分は練り合わせていかなければいけない状況であるということでございます。

以上でございます。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）そういう形で大変ご苦勞されていると思うんですけども、ぜひすり合わせをしっかりとやっていただいて、やはり、あやの台出されるのは結構ですけども、まず、やっぱり隅田の小学校、中学校の再配置どうするよという統一的な見解を市としてまずお出しいただいて、その上で3年先にあやの台に小・中をつくるんやと。決して私はそれぞれの案件、だめよと言うてるわけやなくて、普通は総論賛成各論反対になるんでしょうけど、各論はそれぞれ皆担当部局でいいことやってくれておるんですけど、総論としてそろったときに、私は出し方がちょっとおかしいん違うかという気がするもので、ぜひ先に、隅田地区における教育機関の再配置計画のようなものをお出しいただいて、やっていただきたいと。

10年先を見越した、あるいは20年先までは予想立たんと思いますけれども、就学児童数の、さっき言いましたけど、数字出ておるかどうかわかりませんが、その辺も勘案されたような再配置計画というのが、やはり必要なのではないかなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

次に、経済のほうにちょっと移らせていただきますけれども。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君、先ほどの質問の中で答弁保留していた、答弁、先に進めます。

○7番（中谷和史君）はい。よろしく願いいたします。

○議長（中上良隆君）教育次長。

○教育次長（西本健一君）先ほど教育長が答弁した中で、橋本小・中の説明会がございませぬ。小中一貫校についての説明会につきましては6月25日、水曜日の夜7時からということで訂正をお願いいたします。

それと、就学児童の予想についての質問でございますが、詳細な資料は手持ちではないんですが、現在、隅田小学校は市内で一番、市内小学校14校のうち、隅田小学校全体では562名ということで、一番生徒数の多い学校になっております。それで、現状の20年度の隅田小学校の児童数を含めた総学級数を申し上げますと、19学級でございます。それで、23年度以降には22学級で推移すると予測しております。詳細な資料につきましては、またお答えしたいと思います。とりあえず今の話では、隅田小学校全体では現状19クラスが、23年度以降は22学級になるという予測を立てております。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）そこらを十分勘案されて、今後のあれにさせていただきたいなというふうに思います。新設するよりも増設のほうが多分安うつくと思いますので、その辺のところをよろしく願いいたします。

経済のほうで、経済施策としまして、常に本気で市の商工業の発展を考えているのであれば、先ほども申しましたように、この間の、いろいろ事情は多分あったんだろうと思いますけれども、入札審査会の中でもいろいろ勘案されたと思うんですが、規則を規則どおりに運用するのであれば、これはもう政策的な考えは何も要らんわけで、政治は要らんわけでありませぬ。規則を規則どおりに運営する中で、市の商工業を発展させるために、ここはあえてちょっとこうするかと、こうしてあげたらどうというの、これが政治であろうか

というふうにするわけでありまして、この間の入札におきまして、もうちょっと別の方法があったのではないかなというふうに思いますが、秘密会で、入札審査会で唯一オープンになっておる副市長、ちょっとその辺の内容をよろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（中上良隆君）副市長。

○副市長（清原雅代君）前回の議会のときにもご答弁させていただきましたが、そういったことも含めて議論をした中で、最終、その方法を選んだということでございます。

以上でございます。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）いろんな事情を踏まえてということやろうと思ひますけれども、本当に気持ちの中で、市内の商工業、あるいは市の建設業に力をつけさせるというような考えを持っていただいておりますのか、再度お伺ひいたします。

○議長（中上良隆君）副市長。

○副市長（清原雅代君）当然のことと思ひております。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）わかりました。ぜひ今後の入札審査のときには、その辺のところを勘案いただきまして、よろしくお願ひしたいと思ひます。

また、その3億円なりの費用が、市外業者のほうに流れてしまったわけでありまして、例えば、この金額が市内業者に落ちておった場合の経済波及効果について、検証されてないという、検証が難しいというご答弁だったと思ひますが、今後、検証するようになるのはあるのかないのか。あるいは、まずあるのかないのか、いっぺんその辺のところを財政課長、お伺ひしたいと思ひますが。総務部長か。ごめんなさい。

○議長（中上良隆君）総務部長。

○総務部長（中山哲次君）検証するのかどうかということなんですけれども、現時点では、検証ということについてはまだ考えてはおりません。ただ、市内業者の方々に市の公共工事なり物品調達について、できるだけ許す範囲でお願いはしていきたいと。

当然そうなりますと、一例を挙げますと、当然現場のほうではいろんな材料、調達も含めまして、業者の方々も市内で調達できる部分については調達もしていただけるんであるというふうにも考えておりますし、そういった点については、先ほど副市長もご答弁させていただきましたけれども、前向きには取り組んでいきたいと。そしてまた、当然、橋本市内の経済状況、和歌山県の経済状況なり、橋本市の公共工事におけます工事発注件数も徐々に下がってきております。そういったことも踏まえて、当然、決めたからこれが何年もこれからそれを使っていくんだというんじゃないに、やはりそういった制度の見直しというのは必要かというふうには十分感じております。

以上でございます。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）そういう意味で非常に難しい数字やと思ひます。実際、その3億円、真水おろしたら3億円の効果しかないよという考えもあろうかと思ひますし、我々経営者のほうでは、資本回転率のような考えでいけば、一回の3億円が一次的に市内の業者におりて、またそこから二次的に次の方に消費していき、またそれを消費していくと。経済波及効果としては、やはり3回回れば9億円ほどの効果があるんやなというふうな気もしますので、一度その辺のところをご検討いただきたいなど。

13億円プラス6,000万円ほど、14億円から15億円ぐらいが市内に毎年調達していただいて

おるといふことで、ご答弁いただいたんですけども、今本当に市内の業者、疲弊しておりますので、ぜひ、一番やっぱり市内でたくさんお金を使われるのが橋本市であるということ認識した上で、今後ともよろしく願いたいなというふうに思います。

また、執行した予算のいくらかでも市税として還流するような、コスト意識を持った運営を今後お願いしたいと思う中で、理事、副市長を前に置いて言いにくいんですけど、例えば優秀な人材を市外から市の職員として採用させていただいて、やっぱり市の職員としてお見えになっていただいております間は、子どもさんの就学やとかいう特殊な事情がないのであれば、できれば住民票を市のほうに移していただいて、たとえ少しでも市税が還流するようなどか、そういうような方法も考えられたらいいかなと思うんですが、部長、その辺どうですか。

○議長（中上良隆君）副市長。

○副市長（清原雅代君）住まいにつきましては、私も含めてですけども、人として住居を選ぶ自由というのがございますので、そういう気持ちで、当然市の職員としては、市民のために尽くしていただくという気持ちはやはり十分持っていて、ちょっと住居まではということは、今のところ考えてはおりませんので、ご理解のほどをいただきたいと思います。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）それでは、そういう気持ちを持ってぜひよろしく願いたいと。

最後に、施策の統一性と市の経済政策について、市長のお考えをお伺いして終わりたいと思いますが、市長、よろしく願います。

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）7番 中谷和史議員の再質問にお答えをしたいと思います。

市長の指示が途中でぐらついておるのではないかという受けとめ方をいたしておるわけでありまして。私はやはり、橋本市の方針というものは、これは行政改革大綱であるとか、集中改革プラン117項目、これは議会にもかけて承認をいただいております。これがやはり基本という柱であります。これを横へ置いておいて進めていくというような安易さは一切持っておりません。

特に、今年の3月には、橋本市の新長期総合計画なるものも誕生したわけでございます。10年、20年、50年先の基本理念はこれだというものを示していただいております。

さて、先ほどから多くの議論をいただいておりますが、特に、ご発言の中で、いささか気になった点を申し上げたいのは、あやの台の小中一貫校のことにつきましては、そういう市の内部で検討は確かにいたしました。教育委員会のほうへ私、適切な時期になるだけ早く建てていくのが、これは橋本市の現在抱えている方向としては、大事ではないかということは指示しました。

というのは、企業誘致、これだけ今後どんどん入ってくる中で、私、あやの台の販売センターへ月に一回通っておりますよ。何件入りましたかと。半年で29件入っておりますね。今の事態でこんなではお話にならないわけでございますし、そのうちの75%が、地元の人があそこへ行っておりますよ。大阪からほとんど来てないんですね。こういうことは、私は一番悲しい思いであります。これはもう橋本の人がある程度、紀の川市、かつらぎ町の人もいっくらおりますけど、これを徹底した方向転換して、あそこの2,300区画を一挙にやっ払いこうと思えば並大抵やない。

その中ではやはり、一番意見の多くは幼稚園、保育園、小・中学校の建設、これをやっぱり打ち出さないとだめだと、私は自分に言い聞かせておるんですね。

そういう中で、しかし無計画ではだめやと。やはり隅田の校区の中の耐震診断、2次診断で早期に対処しなければならないのは、これはやはり一番に優先しなければならない。そうしてまた、生徒児童数の減少というの、皆さんご存じやと思いますけども、20年前には923人生まれたんですよ。多少の増減ありますけど、成人式、皆私923人勘定してある。だいたいの動向というのは、7万人の人口ありましたら700人誕生しなければならない。これが基本ですよ。ところが18年度、誕生は540人でしょう。19年度が四百七十一、二人かですよ。70人も既にそれだけで減っていつておるんですね。こういう極度に減少傾向というものを、やはりこれからの出生予測というものをしっかりしないと、なかなか校舎もどんどん統合、音を立てて統合していかなければならないという事態もここまで来ておるんですね。

そういう中で、やはり順位は一番にあやの台とは私、言ってませんよ。できるだけ早い時期にという。しかし、それまでにクリアしなければならない問題がたくさんありますよと。それで、地元の校区の皆さんとも十分意見を交わして、間違いのない学校をつくっていくというような考え方を、教育委員会でひとつお考えをいただきたいなという、私の考えでございます。

それから、業者の問題、これは私は、やはり100%市内の業者にというのは、これは望みたいところであります。入札執行についてはね。しかし、これは入札指名選定委員会等々がございまして、その議を得て慎重に、やっぱりそれらも市内業者のことも加味した上で、

間違いのない執行をしておるということのご了解をいただきたいなと、そう思うわけであります。

総論的なことを私、申し上げたんですけども、ひとつ議員の皆さんのお力添えもいただいて、ひとつ間違いのない市政運営というものにしっかりと取り組んでまいりたいと思いますので、お力添えをいただきますようお願い申し上げます、終わりたいと思います。

○議長(中上良隆君) これをもって、7番 中谷和史君の一般質問は終わりました。

この際、10時45分まで休憩いたします。

(午前10時29分 休憩)